

2025「鳴門海峡の渦潮」国際シンポジウムの開催



鳴門海峡の渦潮を世界遺産へ

世界遺産登録をめざしている鳴門海峡の渦潮。

大阪・関西万博の開催により世界から関西に注目が集まるこの機会に、国内外の関係者参加により渦潮の魅力の発信と海の適正利用について考えるシンポジウムを9月1日（月）に開催します。

1 日 時 令和7年9月1日（月） 13:00～16:40

2 場 所 ホテルニューアワジ プラザ淡路島（兵庫県南あわじ市阿万吹上1433-2）

3 テーマ 渦潮から考える海と暮らしの未来

4 内 容

● 両会長挨拶（兵庫・徳島県知事）

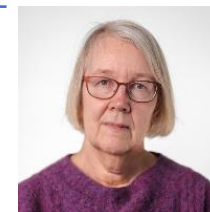
● これまでの取組報告

- ・ 鳴門海峡の渦潮の普遍的価値
- ・ 鳴門海峡の渦潮世界遺産登録に向けた今後の取組の方向性

● 海外事例紹介（海外類似資産連携調査学術機関からの発表）

サルトストラウメン海峡の渦潮と
海洋保護区域

ヴィグディス・トゥベルバーグ氏
(Prof. Vigdis Tverberg)
(ノルウェー ノード大学 教授
バイサイエンス・水産養殖学部 生態学学科長)



コリーヴレッカン湾の渦潮
～ 神話と現況 ～

アンドリュー・デール氏
(Dr. Andrew Dale)
(スコットランド スコットランド海洋科学協会
主席研究員)





● 基調講演 (世界遺産の現状等)

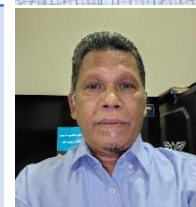
顕著な普遍的価値を有する自然遺産を守るための手段としての世界遺産条約

ギイ・ドゥボネ氏
(Mr. Guy Debonnet, M.Eng.)
(元ユネスコ世界遺産センター自然遺産ユニット長)



地質遺産の保全における地域社会の参加

シャフィーア・レマン氏
(Prof. Emeritus Dr Mohd Shafeea bin Leman)
(マレーシア国立大学名誉教授、IUCN世界保護地域委員会委員(地質遺産専門家グループ運営委員))



世界遺産の文化的景観：自然と文化の懸け橋

モニカ・ルエンゴ氏
(Dr. Mónica Luengo)
(元イコモス文化的景観国際委員会委員長)



● パネルディスカッション

世界遺産と豊かな海について、海外招聘者、地域住民と共に意見交換
・コーディネーター 吉田正人氏 (筑波大学名誉教授・世界遺産学)

● 鳴門の海を守り育てるメッセージ

5 入 場 料 無料 (先着150名) 事前申し込みが必要です。参加決定の連絡は致しません。参加いただけない場合のみご連絡いたします。

6 申込方法 協議会ホームページもしくは専用申込フォームから申し込みください。シンポジウムについては、後日、動画でも公開予定

7 主 催 兵庫・徳島「鳴門の渦潮」世界遺産登録推進協議会

※各講演タイトル等内容を変更する場合がありますので予めご了承ください。



専用申込
フォーム



協議会HP

<https://naruto-uzushio.jp/>

参考：「鳴門海峡の渦潮」の世界遺産登録をめざす取組

「鳴門海峡の渦潮」の世界遺産登録に向け、兵庫県・徳島県の行政機関や団体に構成する『兵庫・徳島「鳴門の渦潮」世界遺産登録推進協議会』を平成26年に設立し、世界遺産登録に必要な顕著な普遍的価値の調査研究、普及啓発、情報発信等の事業を実施

名称

兵庫・徳島「鳴門の渦潮」世界遺産登録推進協議会

組織

会 長：兵庫県知事、徳島県知事

副 会 長：南あわじ市長、鳴門市長

構成団体：兵庫県、徳島県、洲本市、南あわじ市、淡路市、鳴門市、
関係県市議会議員、民間団体等 41団体



これまでの取組

平成10年～	鳴門市の民間事業者を中心に世界遺産登録の運動が始まり、これに淡路側の民間事業者も参加
平成26年12月	兵庫・徳島「鳴門の渦潮」世界遺産登録推進協議会設立
平成29年度～	自然分野（兵庫県）及び文化分野（徳島県）の学術調査検討委員会による普遍的価値の立証に向けた本格的学術調査を開始
平成31年3月	国際シンポジウムの開催
令和元年8月	海外類似資産の現地学術機関との連携調査を開始（ノルウェー(R1～)、スコットランド(R5～))
令和2年3月	「鳴門海峡の渦潮」の普遍的価値取りまとめ文書（自然・文化）の作成
令和6年1月～ 令和7年3月	世界遺産登録の方向性を審議・決定
令和7年9月1日	国際シンポジウム開催予定

類いまれな渦

・ 最大直径29m

特徴的な地形と月と太陽の引力による潮の干満差によって世界最大級の渦が発生

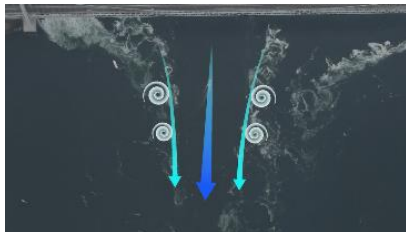


・ 多様な渦



【渦連】

一定のリズムで連続して生まれた複数の渦が連なって移動する形態



【渦対】

海峡中央部の本流の両側に形成される回転方向の異なる渦が、中央で対になる形態

潮の満ち引きと狭く浅い海峡から発生する渦潮



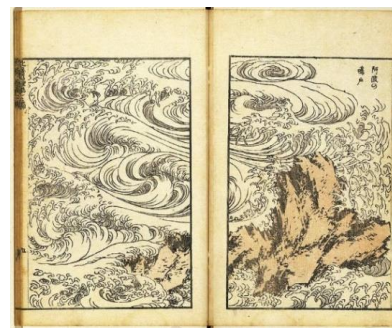
- ①太平洋からの潮汐波は紀伊水道から進入し、鳴門海峡と紀淡海峡に分かれる。
- ②紀淡海峡からの潮汐波は大阪湾、播磨灘を6時間かけて周回し、鳴門海峡北側に到達する。
- ③その時、鳴門海峡南側は干潮となっており、鳴門海峡で満潮と干潮が隣り合う。最大1.5mもの潮位差を生み速い潮流が発生する。

鳴門海峡の幅は1.3km、深さ80mしかなく（海いき）1.5mの潮位差の潮流が狭い海峡で収束され、さらに強流となって渦を発生させる。

古くから絵画や文学の創造の源となった渦潮



歌川広重「六十余州名所図会阿波鳴門之風波」
(国立国会図書館蔵)



葛飾北斎『北斎漫画』七編
「阿波の鳴門」
(山口県立萩美術館・浦上記念館蔵)

- ・ 渦潮が「古事記」の海をかき回し淡路島などの島を生んだ国生み神話の元になったと考えられている。
- ・ 葛飾北斎や歌川広重などの世界的に著名な浮世絵師による作品の題材にもなり、作品を通じて渦潮のイメージが欧米にも紹介される。
- ・ 渦潮を題材にした和歌・俳句・絵画や、渦潮見物を作品とする「観潮記」「紀行文」が多数残る。

